

(119) 福島県郡山の鬼ヶ城・泊山鉾山跡

参考文献(1)を手引きに探査に出かけた。鬼ヶ城では、流紋岩中のガマに成長した微少水晶塊の、金鉾山であった泊山鉾山跡のズリでは黄鉄鉾の良好な標本が採集できた。現在でも、十分な標本を採集することは可能である。現地への経路は文献(1)の通りであるが、現地近傍での経路は本探査記の方が確かであろう。両方を参考にすれば、それに越したことはない。

現地への経路は次の通りである。東北道の郡山南ICを出る。47号線に入り、西行し、直に29号線に入り北上する。深田調整池を過ぎた先で、高篠山森林公園への案内板に従って、29号線から左折し、分岐道には入り、ほぼ西行して行く。そして、途中で、大滝溪谷への案内板に従って、左側の分岐道に入って行く。後は、西に向かって進んでいくだけである。直に林道となっていく。林道の状況が良ければ、図1中のPまで車で行きつけよう。

探査日 2013年4月

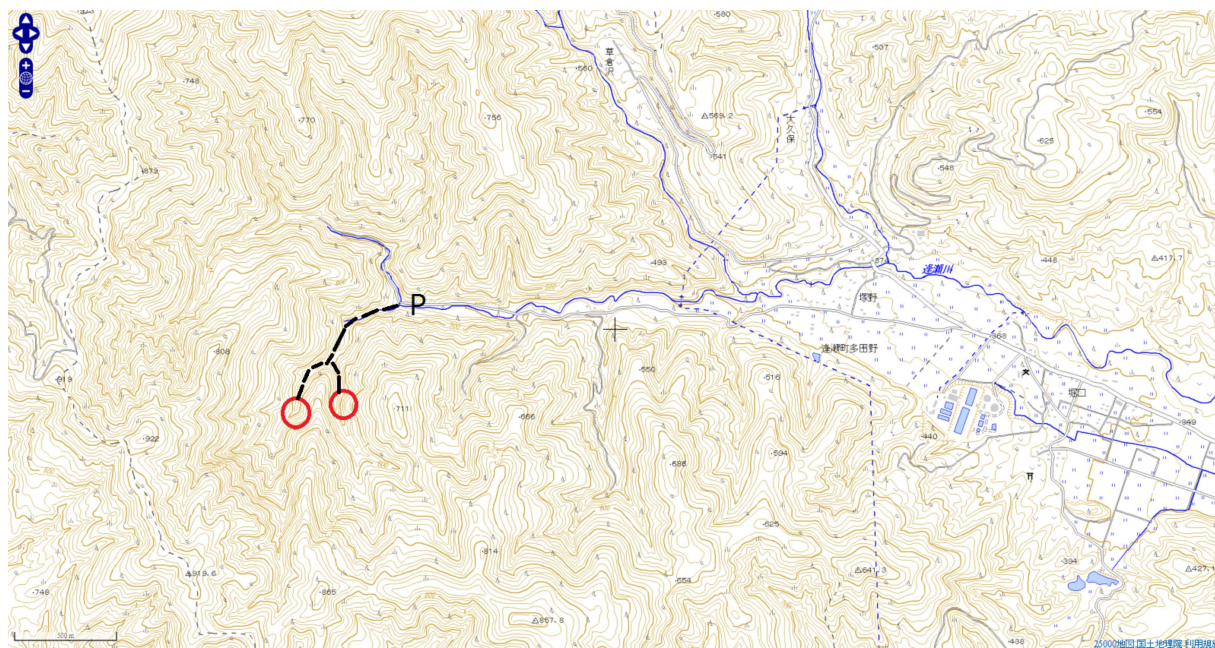


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。P点は駐車可能の場所。橋の手前である。そこから徒歩の経路を黒破線書き入れている。赤丸のうち、左側が微少水晶産地の鬼ヶ城、右側が金鉾山であった泊山鉾山跡。隣り合わせの沢にある。鬼ヶ城には沢に沿った山道を進んでいけばよい。山道の行き止まりが現地である。わかりやすい。が、泊山鉾山は、途中で沢に降り、小さな支流沢に入って行くことになる。

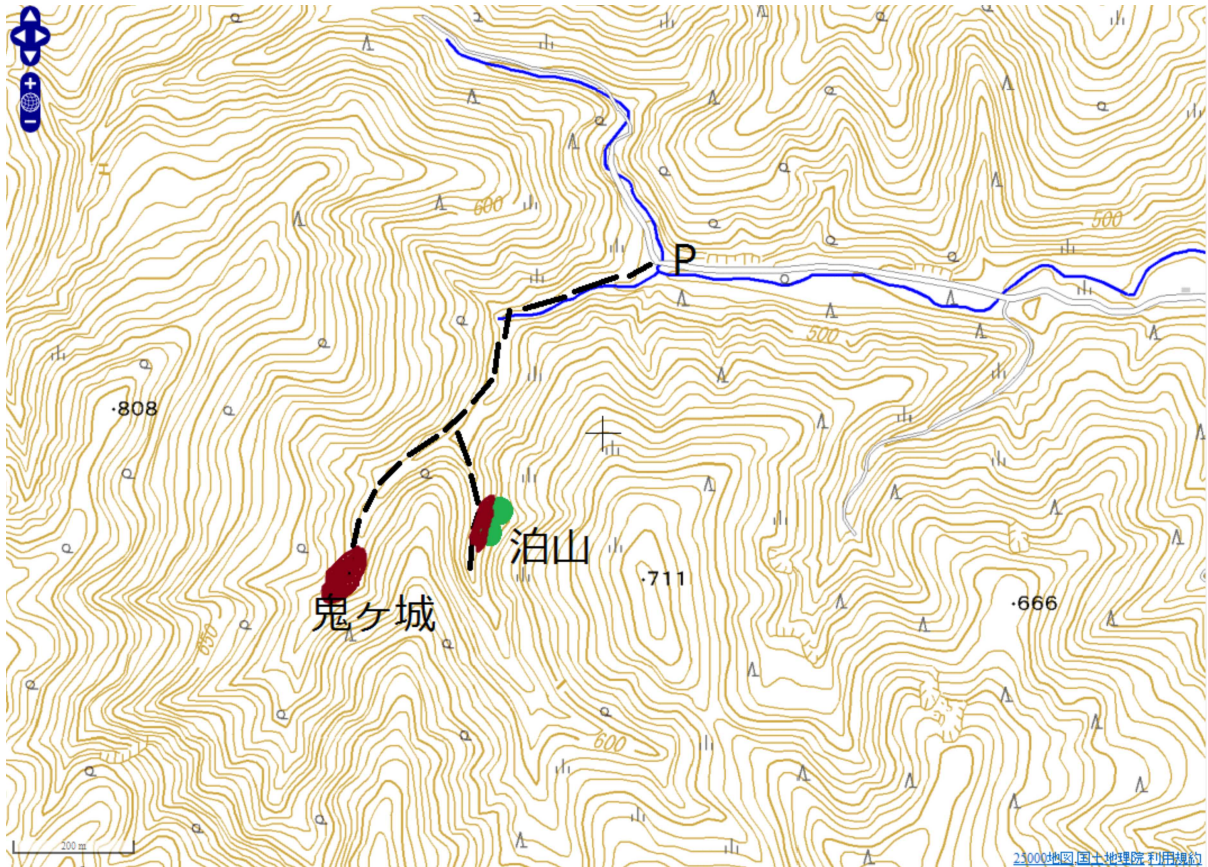


図2 図1の部分拡大図である。Pは駐車場。黒破線で示している鬼ヶ城の現地までの沢沿いの道は快適である。ガレ場、ズリ場を茶色で、坑口跡を黄緑丸で示している。

鉱山跡写真

鬼ヶ城



写真1 このあたりまで、林道が荒れていなければ、車で登ってこれる。手前の左手に適当な駐車スペースがある。主林道は橋の先に伸びているが、現地へは、橋を渡って直ぐに、左側の分岐山道に入っていく。主林道は右に曲がりながら延びており、その先が大滝溪谷となる。



写真2 途中にある小滝。小粒ながらきれいな滝である。山道は右側上部を巻いている。



写真3 沢に隣り合っている山道を登ってくると、前方に滝が現れ、山道がその手前で終わっている。このあたりで、石がごろごろしている地面に顔を近づけて、地面を良く観察すると、1cm未満の水晶柱が結構沢山混じっていることがわかる。採集には、ピンセットなどがあると便利であろう。転石のガマに微小水晶群が成長しているのも見つけられよう。沢の右側斜面には、流紋岩の中のガマに成長した石英群が散見される。斜面からの落石が山道上に堆積している。右側斜面が水晶群の産地であろう。斜面を探索することも考えたが、結構急である。単独でもあったので、断念。次回には、滝の先の右側斜面も探索してみたいものである。

泊山鉾山跡

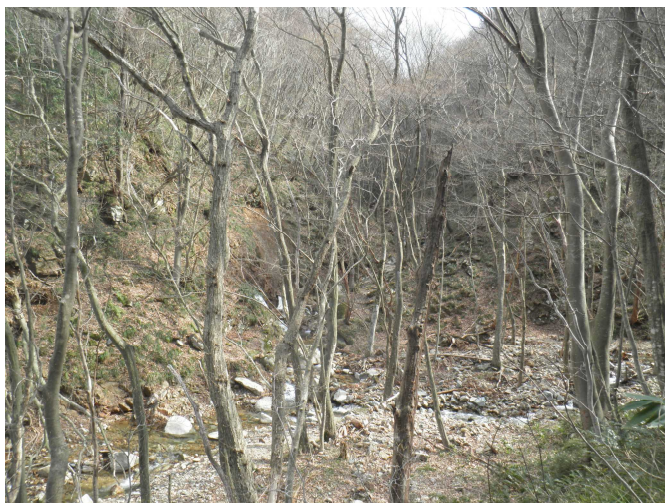


写真4 橋から沢沿いに上ってきた途中に、泊鉾山跡がある。写真で示しているこのあたりで、沢を横断し、前方のあまり大きくない支流沢に入っていく。支流沢の右側に道らしい跡はある。



写真5 沢の分岐点から15分ほどで、沢の左手に坑口跡、ズリ跡らしいものが見えてくる。



写真6 坑口跡、ズリ跡を正面から見る。ズリ跡では外道（この鉱山は金銀鉱山であつたらしい）であるが、黄鉄鉱の良好な標本を採集することは、今でも簡単である。

採集鉱物写真

採集物は
鬼ヶ城 微量石英群（良好）
泊鉱山 黄鉄鉱（良好）

良好な標本であるが、共に有り触れた物なので、写真は未掲載。

参考文献

(1)「鉱物ウォーキングガイド 全国版」、松原 聡、丸善、2010年。